

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901134		
法人名	社会福祉法人 美瑛慈光会		
事業所名	グループホーム 虹		
所在地	北海道上川郡美瑛町南町3丁目3番8号		
自己評価作成日	令和2年2月1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「本人の望む暮らしの実現のためにチームの連携を高め支援していく」「常に相手に与える印象が良い接遇を目指す」「明るくおだやかで、安心できる環境づくりを心掛ける」「お互いの信頼関係を深め、相手の視点・立場を考え、思いやりの心を持って接する」「その人らしくあるために「自立支援」につながる支援を目指す」「本人の暮らしが豊かになるような支援を目指す」の6項目を事業所の理念にかかげ、地域に密着した事業所を目指しています。また、小規模多機能事業所と併設しているため、住み替えることになっても馴染の環境、職員が関わるので、安心して利用すること出来ます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	nhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0172901134-00&Ser
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年2月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多くの高齢者福祉施設を展開している法人が、平成14年に6床から始めたグループホームで、その後7床に増床し現在に至っています。建物内には小規模多機能事業所が併設されており、利用者も職員も自由に行き来して馴染みの関係が築かれています。そのため、在宅生活の継続が困難になり、グループホームへの入居が必要な場合も、環境の変化が少なくスムーズに移り住める事が、この事業所の第一の特筆となっております。事業所は18年目を迎えますが、今も開設当初に作り上げた理念、グループホームの名前にもなっている「虹の七色」も継承し乍ら、改めて6項目になる、事業所理念・基本方針を策定し、管理者、職員はその具現化に向けて取り組んでいます。職員は、日常生活の様々な事を利用者と協働し乍ら、安心して暮らせるようなケアサービスを目指し、また、地域社会との触れ合いやこれまで培ってきた人間関係を断ち切らない支援に努めています。利用者の思いや意向を共有し、体調や状況に迅速に合わせ、6ヵ月毎に介護計画を見直しケアに臨むなど、一人ひとりの人生や人格を尊重した関わりの中で、自立(自律)をめざす利用者の視点に立った支援を具現化する事に職員が心砕いている姿が窺えます。事業所は、馴染みの有る美瑛町から離れがたい認知症高齢者を一人でも多く受け入れたいと、9床に増床した新築のグループホームを敷地内に建て、この4月から開設致します。また、事業所は利用者により豊かな生活を提供すると共に、地域と更に繋がりを深め、安心と信頼に向けた関係づくりに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体会議で読み込み、定期的に振り返っているが、深く読み込むことが少ないため職員全員が理解し心掛けていけるとは言えないため、今後職員全員に深く理解し、実践していけるようにしたいです。	ケアサービスの根幹となる、事業所理念・基本方針と共に、開設時に事業所名にも由来した「虹の七色」の方針も玄関に掲示し共有を図っています。管理者は、理念を掘り下げ、全職員の理解に繋げる事を検討しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に馴染んだ事業所になるように心掛け、町内会に所属し、総会、町内清掃、通信の配布など行っています。また、毎日利用者と地域の店に買い物へでかけたり、祭りなど行事にも参加し、住み慣れた地域とつながり続けられるようにしています。	町内会に加入し、総会や清掃活動には職員が参加しています。法人と町内会協同主催のお祭りには100名以上が参加し賑わい、地元の交流の場となっています。利用者は買い物先で挨拶を交わしたり、定期演奏で訪問するボランティアの方達との触れ合いを楽しんでいます。所長はキャラバンメイトの普及活動に貢献しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の所長が、キャラバンメイトの活動を行っており、各町内会や学校などで普及活動を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、事業所(利用者)の状況や取り組みなど議題に上げて話し合っています。また、避難訓練にも参加して頂き、意見などをくださるので参考にさせてもらっています。	運営推進会議は併設の小規模多機能事業所と合同で行い、家族、行政職員、町内会役員、民生委員、NPO代表、知見者など、幅広い立場の人の参加を得て開催しています。事業所の運営状況報告から独居者の問題や医療機関の問題など、地域の課題も取り上げ、地域に根ざした事業所として、意見交換が活発に行われ、運営に反映させています。避難訓練も実施しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人内での各事業所の連絡調整会議や地域ケア会議など所長、管理者が参加し情報交換を行っています。そこで地域の実情やニーズなども理解することができています。	行政主催の地域ケア会議及び研修に参加し、情報交換を行っています。次年度から増床するに当たり、相談や指導を仰ぎ、協働関係を構築しています。認定更新時にも担当者と情報共有を行い、利用者の安心な暮らしの継続に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の全体会議や委員会で虐待について話し合っています。当事業所では、夜間のみ施錠を行っています。また、転倒などの危険性がある方のみご家族の了承を得て夜間赤外線センサーを使用していますが、なるべく必要最小限にするよう努めています。	身体拘束適正化委員会を設置し、身体拘束の弊害について話し合い、身体拘束をしないケアを推進しています。利用者の状態変化に応じてセンサー使用時には、家族の同意を得て、介護計画に記載しています。玄関は夜間のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で振り返りを設けたり、研修に参加しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は、知っているが、実際対象となる方が利用されていないので、勉強不足ではあると思います。今後職員全体で理解を深めていけるよう努めたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時とも丁寧に説明しています。また、不安や疑問な点等訪ねやすい雰囲気になるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は要望があれば外出、外食に行く等できるだけ答えられるように努めています。ご家族は、面会時など意見や要望など聞くように努めています。	利用者から運営への意見等は難しいものの、日常の会話から「ドライブしたい」「買い物に行きたい」など要望を受け個別支援にて適宜対応しています。家族とは、来訪時や電話にて状況を伝え、想いの汲み取りに努めています。	広報誌「虹通信」が昨年の5月号以来休刊となっています。利用者の暮らしぶりや個別のバイタル情報、職員の利用者への気付きなど、ケアサービスの実態を伝える工夫を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングやその都度意見や要望を聞いています。また、必要があれば職員会議にあげ、職員と話し合い反映できるものは、反映するようにしています。また年に一度各職員にプランニングシートを記入してもらい目標や要望を聞いています。	職員は所長、管理者と日常的に率直に話し合える関係性が築かれています。日々の申し送り時で情報を共有し、必要に応じて全体会議や個人面談で職員の意見を引き出し乍ら、利用者のケアや業務等に反映させています。1年間のプランニングシートを作成し、自己評価する機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長や管理者がなるべく職員とコミュニケーションを図り、労働環境や悩みなど聞くように努めています。また、法人内・外の研修や他施設への視察、資格取得、企画担当など職員がやりがいや向上心を持てるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて、法人内外の研修に参加してもらっています。また、資格取得の際も相談に応じて勤務を考慮したりと支えられるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修や法人内での互助会やサークル活動で他の事業所の職員と交流する場を設けています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	併設している小規模多機能事業所と連携し、今までの生活リズムや人間関係をなるべく続けられるようにしています。また、ご家族にも安心できる生活ができるようなるべく細かい情報を聞くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始して慣れていただくまで、なるべくこまめに連絡している。また、日々の関わりもご家族とも相談、協力してもらいながら対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に事業所でも対応できること難しいところを説明させて頂いてから契約しています。利用途中でも希望があれば他のサービス機関と連携し、対応するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念でも掲げているとおり、お互いに信頼関係を築きながら相手の視点、立場を考え、思いやりの心をもって対応するように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればご家族へ連絡し、一緒に考えるようにしています。また、ご家族との関係が続くように通院や外出をお願いする場合があります。ご希望があれば外出や外泊などいつでも対応できるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や本人から情報を聞き、病院、歯科、美容室などは可能な限り、継続して通うようにしています。	かかりつけの病院や馴染みの美容室には職員が対応しています。地元の名所、美瑛の丘に出かけ、ラベンダーを愛でたり、好物のアイスクリームを味わうなど、季節の楽しみ事を継続しています。家族の強力で自宅帰省や外食も支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の発言や行動から関係性を把握し、食事席、日中過ごすリビングでの場所などその都度配慮するように努めています。また、可能な限り、利用者皆でゲームや家事作業、ドライブなどを通して孤独にならないように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても必要があれば他のサービスへつながるよう情報提供や相談をさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当中心にその方の以前の暮らしや日々の発言、性格などからできる限り情報をまとめ本人の希望や意向を考え、関わりに反映できるよう努めています。	担当者を中心に、日常のコミュニケーションの中で本人に確認し、把握した内容は申し送りノートで情報を蓄積しています。発語が困難な利用者へは家族と検討を行ったり、表情の変化や想いが表出される様に声掛けを行うなど把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各担当中心に本人や家族、関りがあった方からの情報をアセスメントシートにまとめ職員が把握できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方は、支援記録、排泄チェック表などに記入し、特記事項があれば業務日誌に記載し、引き継ぎし、職員全体で把握できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新ごとに事業所でカンファレンスを行っている。また、必要があれば随時カンファレンスを行いモニタリングし、職員皆でアイデアを出し合い、作成しています。	介護計画は6ヵ月毎に作成しています。アセスメントを基にモニタリングを行い、介護計画や申し送りノートから利用者の変化を読み取り、利用者個々の担当者を中心にカンファレンス時に意見交換が行われています。状態変化時は随時見直されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録では、項目分けをせず、客観的事実と主観を分けて記載できるよう工夫し、スタッフ個々の思いを記載できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や買い物などの希望があれば併設している小規模多機能事業所と連携し、できる限り対応できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の訪問リハビリステーションと連携し、専門医からアドバイスを受ける日々のケアに活かしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限り、当事業所を利用する以前からの掛かりつけ医を継続しています。また、症状によって他の病院の受診が必要な場合にもご家族に相談し、必要があればご家族にも同行していただいています。	かかりつけ医は、利用者、家族が望む医療機関を支援しています。受診(通院)は職員が対応し、必要に応じて家族も同行しています。他科の受診も都度家族と相談し対応しています。併設の事業所に看護師が在籍しており、アドバイスを受けています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時必要があれば報告、相談しています。また、緊急時などの場合かかりつけ医のいる看護師に相談することもあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は、なるべく面会に行き、担当看護師やご家族に状態や退院の見通しなど聞くようにしています。また、ご家族の希望があれば、医師との話し合いに参加し、治療方針、退院に向けてのをご家族とともに話し合っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に重度化した場合の指針を基に説明してから了承を得て契約しています。また、経過を見て再度ご家族に確認して具体的な関わり方を決め、支援しています。	入居時に、重度化した場合における指針を説明し同意を得ています。現状では、療養型医療機関や特別養護老人ホームへの移行が多いですが、終末期には医師、看護師、介護職員で話し合い、出来るだけの支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防主催の緊急蘇生法の研修に参加しています。また、緊急時の対応マニュアルを作成し、すぐ確認できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した災害避難を行っています。また、町内会や運営推進委員の方にも参加していただき、一緒に協力してもらえよう願っています。	今年度はまだ避難訓練を実施しておりません。新築へ移行する3月に、夜間想定火災避難訓練を予定しています。災害に備えて、自家発電機、ポータブルストーブ、水、食料を確保しています。	新たな建物で訓練を実施する予定になっておりますので、法令に基づく、年2回の昼・夜想定火災避難訓練の実施を基本に、自然災害に対する避難訓練の実施も重ねる事を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基にひとり一人の方を尊重した関わりをするよう努めています。また、職員会議等でスピーチロックなどの関わりをしていないか振り返りも行っています。	職員は理念の1つにある「関わりの中での配慮」に在る様に、思いやりの心を持って接する支援を行っています。職員は、事故防止の観点からやむを得ずの声掛け等についても、謙虚に振り返っています。管理者は、グレーゾーンについての学びを深めたい考えを示しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の声掛けや関りで自己決定ができるような声掛けをするよう心がけています。また、ミーティングやカンファレンスなどで情報を共有できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせてできるだけ本人に合わせるようにしているが、自分で表現が難しい方は、こちらから関わりを仕掛けることもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族から今まで着ていたものをそのまま持ってきていただき来ています。また、必要があればご家族や担当のスタッフが本人の嗜好などを考慮しながら用意する場合もあります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方は、野菜などの下処理を行っていただいています。調理は、毎食リビング近くの台所で手づくりをし、調理のにおい、音を感じられるようになっていきます。また、希望があれば外食や食べたいものをメニューに入れ作ることもあります。	朝・夕食のメニューは職員が利用者の要望を取り入れ乍ら作成しています。昼食は、併設の小規模多機能事業所の専門職員が調理しています。どちらも法人の栄養士のアドバイスのもとに、バランスの取れた食事が提供されています。刻み食やミキサー食にも対応し、季節行事や誕生日には利用者の好物を用意し喜ばれています。年2回、個別対応で外食も企画し、食べたい物を楽しんで頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別チェック表シートを活用して摂取量、水分量など1週間単位で把握できるようにしています。また、月に1回体重測定を行い、健康状態の参考にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者の状態に合わせて口腔ケアを行っています。また、必要に応じて歯科受診へ行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別チェック表シートを活用してなるべく、トイレで排泄できるように関わっています。	排泄パターンを把握し、自立者は現状維持出来る様に見守り、困難な場合は時間誘導や声掛けで、失敗の軽減に努め、トイレ排泄を支援しています。下着や排泄用品の使用は、利用者や家族の意向を踏まえ検討しています。夜間の事故を予防する上で、ポータブルトイレ使用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用している方もいらっしゃるのですが、なるべく必要最小限になるよう個別チェックシートを活用しながらモニタリングしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	併設している小規模多機能事業所と連携しなければならぬので、入浴時間、曜日は決めてしまっていますが、なるべく本人の気持ちや体調に沿って時間や曜日を変更する等の対応はしています。	浴室は併設の小規模多機能事業所と共有していますので、午後からの使用となり、曜日も定着していますが変更は可能で、週2回を目安に入浴を支援しています。湯船が広いので、二人でゆったりと楽しむ事も有ります。無理強いせずに、シャワー浴、足浴、清拭も取り入れ、希望に応じて同性介助も支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や体調に考慮し、関わるようにしています。また、必要があれば、ポジショニング等も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の内容綴っており、随時確認できるようにしています。また、薬の変更などは、業務日誌に記入し、職員全体で把握し、状態の変化がないか気づくようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の暮らしや職業、趣味などからできることをなるべく行ってもらえるように関わっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば出かけられるようにしているが、すぐ対応が難しいものは、後日や、ご家族に協力をお願いすることもあります。	ふれあい観音祭、神社祭などの町内会行事や美瑛の丘のラベンダー見学、桜見物、外食、買い物など、個別対応で利用者の要望に応えています。家族の協力のもとに、自宅帰省や外食にも出かけています。天気の良い日は、ベランダで日光浴を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方やお家族からの了承が得ている方は、所持して頂いています。ご自分で管理が難しい方は、ご家族からおこずかいとして事業所で管理しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気が出るよう一般家庭で使用しているようなソファやテーブルを使用しています。また、窓が広く庭の草木から季節感を感じられるようになっています。	リビングの天井は高く、お洒落な照明器具や暖炉、テーブル、ソファがバランス良く配置され、利用者が其々に寛げる空間が用意されています。神棚や時計、ぬいぐるみ、季節の雛人形も飾られて、家庭的な雰囲気の中、季節感への配慮が窺えます。トイレと洗面台は悪臭も無く、清潔を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	課題でもあるが、ソファの位置やカウンターなどできるだけ工夫できるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家具や趣味のもの写真などを飾り、居心地が良い空間になるよう工夫しています。	居室にはクローゼット、ベット、寝具、カーテンが備えられています。利用者はタンス、テーブル、加湿器など生活必需品を揃え、家族写真や、自作の書や俳句、絵画など飾っています。ポータブルトイレは布で隠し、入口の扉には好きな歌手の写真を貼り、自室の目印とする等、自分の居室を作り上げています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所画分かりやすいように表札をつけたり、椅子やテーブルなど共有空間で使う家具は足を切るなどし、低くしているものがある等。個々の利用者に合わせてものを利用できるように工夫しています。		